

国立大学法人岩手大学 中期目標

(前文) 大学の基本的な目標

岩手大学は、新制大学発足以来、地域を担う指導的人材の育成と、その基盤となる学問諸分野の研究において、着実な成果をあげてきた。法人化移行後も「岩手の大地とひとと共に」をスローガンとし、地域の中核的学術拠点として運営されている。その基本姿勢は第3期中期目標期間においても変わることはない。

2011年の東日本大震災以降、岩手大学は被災県にある国立大学として地域の復興推進・支援の役割を果たしてきた。この活動は岩手大学に託された使命(ミッション)として継続していく必要がある。復興活動は岩手にとどまらず日本の、また世界の共通課題と認識しているからである。

こうした使命を自覚し、第3期中期目標期間の岩手大学は、地域再生の課題解決をはじめ地域社会の持続的発展のための課題を中心におきつつグローバルな視点も含めた教育・研究・社会貢献等の活動を展開し、地域に根差して成果を世界に発信する大学を目指す。これにあたっては、時代と地域に即した教育研究組織の改革と教育・研究の実施、中規模総合大学の利点を生かした岩手大学のアイデンティティの確立と、その精神(スピリッツ)涵養のための教育、地域の文化、産業等のグローバル化に対応した教育、大学が地域を先導する新たな地域連携の仕組みの構築、社会の変化に対応した機敏な大学運営、などを主要な柱とする。

さらに、地域活性化の先導役を自覚する岩手大学は、これまでの復興活動を基盤とした文理融合の教育研究組織を設置し、また既存の研究センターを有機的に連携させ、復興と地域創生を絡めた新たな教育・研究の国際展開に全学をあげて挑まんとする。

中期目標の期間及び教育研究組織

1 中期目標の期間

平成28年4月1日～平成34年3月31日

2 教育研究組織

この中期目標を達成するため、別表1に記載する学部、研究科、並びに別表2に記載する教育関係共同利用拠点を置く。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

グローバル(グローバル×ローカル)な視点で復興に尽力する岩手大学で学ぶ学生としてのアイデンティティを涵養し、地域の産業・行政・教育等の分野で指導的役割を果たすことができる、幅広く深い教養と高い専門性を備え、主体的に学び行動する人材を育成するために、学士課程教育を充実する。

ミッション再定義で示した「地域課題を世界の共通課題として認識・展開できる人材育成のための大学院教育の充実」に向け、修士課程・博士課程・専門職学位課程における教育内容や方法の質的転換を実施する。

地域社会における学術拠点(知の拠点)として、社会人や地域の高校生に、大学の知的資源を活用した学びの機会を提供し、地域社会の持続的発展を担う開かれた大学づくりを進める。

(2) 教育の実施体制等に関する目標

グローバル（グローバル×ローカル）な視点で復興に尽力する岩手大学で学ぶ学生としてのアイデンティティを涵養し、地域の産業・行政・教育等の分野で指導的役割を果たすことができる、幅広く深い教養と高い専門性を備え、主体的に学び行動する人材を育成するための教育実施体制を整備する。

岩手県内外の大学間における教育連携体制を整備し、相互の強みを活かした教育を実施する。

(3) 学生への支援に関する目標

学業、留学、健康、正課外活動、経済的支援など多様なニーズを抱える学生への学修支援や生活支援等を行う。

大学が養成しようとする人材像を踏まえ、学生と社会のニーズに応えるキャリア形成支援を実施する。

(4) 入学者選抜に関する目標

高大連携や大学教育の質的転換という観点も踏まえ、大学の入り口段階で求められる能力を明確にし、これを多面的・総合的に評価する選抜方法を検討して実施する。

時代や社会の要請もふまえ、大学院課程で求める学生の資質をさらに明確にし、それにふさわしい多様で優秀な学生を国内外から見出し、受け入れる大学院入学者選抜の仕組みを追求し、実施する。

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

地域の中核的学術研究拠点として、これまで培ってきた「岩手豊穡学」や「金属生産・表面界面工学」、「寒冷環境における農学・生命科学」等、岩手大学の強み・特色となる学術研究を一層推進する。また、科学技術イノベーション創出の源泉となる創造的基礎研究や異分野融合研究に取り組み、その成果を国内及び世界に向けて発信することで、岩手大学の研究力向上とグローバル化を実現する。同時に、岩手大学の特色ある研究成果と研究力を基盤として、地域創生を先導する応用研究を展開し、地域社会の持続的発展に貢献する。

(2) 研究実施体制等に関する目標

地域の中核的学術研究拠点として、岩手大学の強み・特色となる学術研究及び異分野融合研究、地域創生を目指した応用研究を推進するための研究推進体制を整備する。

3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

地域の中核的学術拠点として、地域創生に向けて、自治体等地域社会との連携及び大学の知的資源を活用した社会貢献を推進する。

地（知）の拠点大学として、地域社会との緊密な連携のもとに、地域課題解決に向けた教育・研究を全学的に推進し、地域創生に貢献する。

4 その他の目標

(1) グローバル化に関する目標

地域に顕在化した諸課題をグローバルな視点から解決し発信できる人材を育成するために、教育のグローバル化を推進する。

地域に顕在化した諸課題をグローバルな視点から解決し発信できる人材育成のための全学的体制を整備し、機能させる。

(2) 附属学校に関する目標

地域創生の観点に立ち、地域の教育諸課題を解決することのできる、地域の初等・中等教育機関教員を養成するための実習校としての機能を強化する。

地域のモデル校としての附属学校の機能を強化し、先導的・実験的取組を通じた教育・研究を進め、地域の教育課題に応える。

業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

学長のリーダーシップのもとに、地域における中核的な人材育成及び学術拠点、また被災県にある国立大学としての認識のもと、時代や社会の要請に対応した戦略的運営を推進するとともに、中規模総合大学としての強みや特色を活かした戦略的大学運営を展開する。

機能的な大学運営に資するため、多様な人的資源を活用し、活発な教育研究活動が実施できる組織運営を行う。

2 教育研究組織の見直しに関する目標

ミッション再定義を踏まえ、地域社会の持続的発展に寄与し、グローバル化時代に対応したイノベーション創出の学術拠点としての役割を果たすため、大学の教育研究組織を大幅に見直し、地域の中核的学術拠点としての機能を強化する。

3 事務等の効率化・合理化に関する目標

大学の機能強化に資するため、業務改善を継続し、時代状況に合った機能的・効率的な大学事務マネジメントを推進する。

財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標

外部資金の獲得等多元的な収入源の確保に努める。

2 経費の抑制に関する目標

教育研究等の目標達成に必要な経費の確保を目的として、業務の改善・効率化や教職員の意識を高めることにより、管理的経費を抑制する。

3 資産の運用管理の改善に関する目標

保有資産の有効活用と効果的運用を行う。

自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

1 評価の充実に係る目標

大学の教育、研究、社会貢献、グローバル化、及び管理運営に係わる全学的評価活動を持続的にを行い、その評価結果を大学の機能強化推進に活用する。

2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

大学の取組や成果を国内外に向けて積極的に情報発信する。

その他業務運営に関する重要目標

1 施設設備の整備・活用等に関する目標

適切な施設マネジメントを実施し、施設の整備・維持保全を推進する。

教育研究の質の向上や業務運営の効率化を図るため、情報基盤の整備・更新を推進する。

2 安全管理に関する目標

教職員の安全と健康のため、これを阻害するリスク低減と、その意識向上の取組を推進する。

3 法令遵守等に関する目標

法令遵守、危機管理の徹底・強化を図り、法令等に基づく適正な法人運営を推進する。

別表1（学部、研究科等）

学部	人文社会科学部 教育学部 理工学部 農学部
研究科	総合科学研究科 教育学研究科 理工学研究科 獣医学研究科 連合農学研究科 参加大学 〔 弘前大学 山形大学

別表2（教育関係共同利用拠点）

冷温帯林における林業技術教育・森林環境教育・自然環境管理教育共同利用拠点（農学部附属
寒冷フィールドサイエンス教育研究センター御明神演習林・滝沢演習林）